

## 投稿文本文【投稿者 森正】

当日朝には少し小雨が残っていましたが、行程が進むにつれ天気も回復し、無事に予定のコースを巡ることが出来ました。開会式後、16号を歩くと歩道脇にはアミガサタケが散見される。16号を外れ滝山城跡入口から「かたらいの路～滝山コース～」に入り、最初の急登をしのいだ後の散策路の先にはヤマツツジのトンネルが迎えてくれると共にイノシシの餌探しの跡もある。ヤマツツジの花は食用で酸っぱい味がするが、子供が参加するインストラクションの場では誤食を避けるために特に注意することと説明された。注意したい。

途中、脇道に入り、クチナシグサ、ジュウニヒトエ、オオバトンボソウ、ミサキカグマなどの野草を各自細かく観察する。途中、ヤマツツジの大群生、開花前のナツハゼ、開花するツリバナ、スミレなどが植生する所で小休止。

大沼に向かう散策路ではギンラン、オケラ、群生するキンラン、ナルコユリ、ツクバネウツギ、コゴメウツギなどが見られたが、元気のないアワブキはどうしたのか？大沼周辺とそこに至る小径では、多くの野草の名前を教えてもらった。タツナミソウ、ウマノアシガタ、アカネ、チダケサシ、オカトラノオ、ツリガネニンジン、ハンノキなど湿生地を好む植生が多く見られる宝庫と化している。滝山城跡の中の丸へ福生南公園の手前では、イヌザクラ、ハンショウヅル、アカシデ、カマツカなども見ることが出来た。カマツカはバラ科、細かい鋸歯が特徴の葉を持ち、小さい白い花が咲いていない時はこの特徴のある葉で見分ける。

昼食休憩後には、この段丘地形を大いに活用して城作りをした滝山城主北条氏照や戦国時代に生きた武将との関係などを説明して頂いた。

高月の田園地帯に下りる道路の傍らには、イチリンソウが群生し、ホウチャクソウの花なども見ることが出来た。秋川の土手沿いには、たくさんの野草が植生しており、ヤセウツボ、オニグルミの花序の付き方、ハタザオ、ギシギシの仲間のスイバなど教えていただきましたが、ここでも(私にとって)初めて見るものが多くて目が回りそうでした。個人的には、毛が無く、鞘の中に4～5個の種を付けるカスマグサと2個が多いスズメノエンドウとの見分け方、カラスノエンドウの「カ」とスズメノエンドウの「ス」の間(自然交配種)だから、「カ」「ス」マグサ(間草)と名付けられたとか説明が面白かった。

高月の土手沿いを歩き様々な野草を見ながら、イネ科に半寄生するカナビキソウ、コバンソウの説明も伺った後、最終地の福生南公園で解散。行程の途中では、キジ、ダイサギ、アオサギなどを目にする事が出来ましたが、物まね上手のガビチョウの鳴き声を聞き分けながら、約20種類の鳥類がいたとかお聞きし、これは鳥類の学習にも力を入れなくてはと思ひ至りま

した。兎に角、多数の野草、樹々を教えて頂きました。消化不良でしたが、今後実地観察をベースに少しでも知識を身に付け、インストラクションに生かしたいと思います。このような企画、そしてたくさんの説明をして頂きまして、幹事さんには本当にありがとうございました。